

公益信託 NEXCO関係会社高速道路防災対策等に関する支援基金
受託者 三菱UFJ信託銀行株式会社 宛

研究概要書

研究課題：大災害時に置ける DMAT 医療チームの高速道路活用及び SA/PA の活用方法に関する研究

研究代表者：国立病院機構災害医療センター	臨床研究部長	小井土雄一
共同研究者：国立病院機構災害医療センター	政策医療企画研究室長	近藤久禎
国立病院機構災害医療センター	医師	小早川義貴
国立病院機構災害医療センター	非常勤医師	岬 美穂
国立病院機構災害医療センター	災害医療技術員	市原正行
国立病院機構災害医療センター	災害医療技術員	大野龍男

はじめに

3.11 東日本大地震の際、全国の約 380 チームの DMAT（災害医療チーム）が発災直後から被災地に向かった。この時陸路参集チームは、東北自動車道はもとより常磐、磐越、北陸など高速道路を活用して被災地に入る事となった。その際に給油や食料の補給、一時休憩場所として多くの SA/PA を使用した。しかし、高速道路の活用は以前から予想はされていたが、訓練や連携は行なわれてはいなかった。医療と高速道路は一見何のつながりも無いが、実は救急搬送や災害時の迅速な移動、大規模な事故での Dr へリによる患者の搬送などいろいろな面でつながりを持っている。これらの事をふまえて DMAT 医療チームと高速道路の活用を研究する事で、1 人でも多くの救命につなげたい。

1. 研究の目的

一昨年まで、この研究を続けた結果、内閣府防災で作成した「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」の第 4 章医療活動にかかる計画に DMAT の陸路参集拠点として九州、四国、近畿、東海の SA が登録された。また現在内閣府では「首都直下政府具体化計画」のリニューアルを行っており、首都周辺の参集拠点を具体化するように当事務局に問い合わせが来ている。しかし裏付けとなる NEXCO との実動訓練が予算の関係で思うように参加する事ができなかった。

2. 研究の内容

現在全国に災害医療の専門家 DMAT チームは 1426 チーム 9328 人が登録されている。このチームの技術の向上及び維持、また災害時に円滑な救護活動がおこなえるよう、全国を 8 ブロックに分けて、ブロックごとに毎年 3 回以上の訓練、研修を行なっている。これらの訓練や研修の際に、NEXCO 各社と協力をして、SA、PA などを情報及び DMAT 参集の拠点とし、災害医療チームと NEXCO の災害時における連携・調整、協力方法につき実地訓練を通じて検証する。また、医療チームだけでなく、各地域の消防や警察など他機関との連携や情報共有の場所としての有用性に関して、訓練を通じて検証する。昨年度だけでも NEXCO 各社と全国 8 ヶ所で実動訓練を行い、今年度もすでに 5 ヶ所以上の SA での訓練を行なっている。

また全国各地域で行なわれる災害訓練や医療以外の災害をテーマにした関連学会等にも積極的に

参加し、知見を深めるとともに災害医療の啓発にも寄与する。

3. 主な訓練実施実績

※

日時	訓練主催	高速道路	参集場所
2016.08.06	大規模地震時医療活動訓練	東名高速道路	下り 足柄 SA
		中央自動車道	大月 IC 管理事務所(談合坂 SA)
		新名神高速道路	土山 SA 除雪車両駐車場 管理室
		伊勢湾岸道路(新東名)	豊田東 IC 管理事務所
		関越自動車道	下り 三芳 SA
2016.11.26	関東ブロック訓練	首都圏中央連絡自動車道	外回り 狭山 PA
2016.11.12	中国ブロック訓練	中国自動車道	上り 安佐 SA
2016.11.05	九州沖縄ブロック訓練	長崎自動車道	大村湾 PA
2016.10.15	中部ブロック訓練	中央自動車道	飯田 IC, 諏訪湖 IC,
		名古屋自動車道	松本 IC
2016.12.17	近畿ブロック訓練	山陽自動車道	淡河PA

※-1 広島県山陽自動車道下り八本松トンネルで多重事故発生、広島 DMAT が出動し患者対応を行なった。

※-2 熊本地震においてレンタカーで出動した DMAT 隊を DMAT 証を見せる事で通行止め区間も優先的に移動する事ができた。

4. まとめ、今研究で得られた成果、今後の課題等

内閣府防災で作成した「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」の第4章医療活動にかかる計画に DMAT の陸路参集拠点として九州、四国、近畿、東海の SA を登録する事になった。また新たに内閣府では「首都直下政府具体化計画」のリニューアルを行ない、その結果、当研究のアドバイスを反映し首都圏周辺の DMAT 参集拠点が具現化された。これには東名高速道路の足柄 SA, 中央自動車道の談合坂 SA、関越自動車道の高坂 SA、東北自動車道の蓮田 SA、常磐自動車道の守谷 SA、東関東自動車道の酒々井 PA が新たに登録された。

28年度政府主催の大規模地震時医療活動訓練では、昨年度政府が発表した「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」で指定された足柄 SA、土山 SA 及び指定はされていないが談合坂 SA のかわりに大月 IC、上郷 SA のかわりに豊田東 IC を使った参集訓練を行なった。生憎8月夏休み入って第一週目の週末と重なり一般利用者が多く談合坂、上郷での訓練は混乱を避ける為代替え施設として IC にある高速道路管理事務所をお借りしての参集となった。実災害では主要高速道路は緊急交通路に指定され SA, PA が使える事は東日本大地震で実証済みである。ただし今回の訓練で使わせて頂いた IC の管理事務所は広い駐車場及び管理事務所内の一部(室内会議室)を使用させて頂いたおかげで、野外にテントを設営して発電機を使って発電をしたりする必要がなく快適であったとの報告を受けている。また管理事務所があれば高速道路の情報や高速道路警察などからも情報をえる事が可能となり今後もこのような研修訓練を続けて行く事が必要と感じた。

大規模災害とは言えないが、本年3月に起きた広島県内の山陽道八本松トンネル多重事故では広島DMATが出動し患者の搬送をした。この際にNEXCO西日本と広島DMATが協力しスムーズに情報交換が行なえた事は普段からの訓練、研修が活かされたと考える。

5. 関係資料、報告書

資料-1 足柄SA、大月IC、土山SA、豊田東IC、各参集拠点訓練報告

資料-2 三芳SA、狭山PA、各参集拠点訓練報告

資料-3 安佐SA 参集訓練報告

資料-4 大村湾PA 参集訓練報告

資料-5 飯田IC、諏訪湖IC、松本IC、各参集訓練報告

資料-6 淡河PA 参集拠点訓練報告